第 42 回中日理論言語学研究会
2015 年 7 月 19 日（日）

「の」の過剰使用と名詞の統語的用法の過剰般化
―中国語母語話者と韓国語母語話者の作文データを通して―

湖南大学　張　佩霞

1. 問題提起―「の」の過剰使用（過剰般化）？名詞の統語的用法の過剰般化？

（1）ちいさいの時は色々なことを学びなります。(KG085、中級）[1]
（2）何もかもできるという心得を持つことが大事なのようである。(KG015、上級）
（3）そして、勤勉は外国語がうまくなるの一つの必要な基準だと思う。(CG054、上級）

◇上記の「の」の誤用はこれまでに、主に「「の」過剰使用」として注目されてきている。

◇一方、張・高（2015,印刷中）は「「の」の過剰使用」ではなく、「名詞の統語的用法の過剰般化」ではないかと指摘する。

（4）そして、私も本を読むが好きです。(「V 助詞」）
（5）この冬休みは忘れられないの冬やすみでした。(「V の N」）
（6）お金は、受災者たちへの提供します。(「連体＋V」）
（7）でも，友達だから．みんなを手伝うです。(「V だ・です」）
（8）日本語の勉強と音楽の聞くとテレビの見るとものを食べる。(「V と・や V」）

◇上記の（5）の「V の N」以外に、「V 助詞」、「連体＋V」、「V だ・です」、「V と・や V」など、名詞の統語的用法が体系的に初級中国人日本語学習者の作文データに観察された（張・高 2015,印刷中)。

2. 問題の所在と研究の目的

◇「の」の誤用は母語の転移によるものである（吉川 1997、張 2002)。

◇「の」の誤用は他の母語話者にも見られるので、母語転移ではなく、普遍的な発達過程である（白畑 1994)。

◇中国語、韓国語、英語の母語話者のデータを調べ、いずれにも「の」の過剰使用がみ

[1] 本稿で「KG085、中級」や「CG054、上級」のようなマーカーを付けた例文は「日本語学習者作文コーパス」（科研費課題番号：22520537，代表：李在鎬）から取った例文であり、何もマーカーをつけていない例文は「湖南大学学習者中間言語コーパス」（科研費課題番号：22320093,代表者：杉村泰）から取った例文である。ここでお礼を申し上げたい。

られたが、中国人の場合だけ、上級になっても、「の」の過剰使用が多く観察されるので、発達段階によって母語による違いが見られる（迫田 1999）。

◇「の」の誤用は、「の」の過剰般化、ナ形容詞と名詞の区別の混乱、学習者の言語処理のストラテジー、言語転移が関与している（奥野 2005）。

◇「の」の過剰般化ではなく、名詞の統語的用法の過剰般化とみることもできる（張・高 2015、印刷中）。

◇張・高（2015、印刷中）は初級中国語母語話者のデータしか考察してなく、中級や上級の中国語母語話者のデータはいかなるものか、また他の母語話者のデータはいかなるものか、を調べていない。

◇統語的特徴の異なる母語を有する初級、中級、上級の日本語学習者のデータを調査し、日本語の名詞句構造習得のメカニズムを解明しようとするのが本研究の目的である。

3. 研究対象と使用データ

◇本研究では、学習者の作文データに現れる動詞（V）・形容詞（A）の中で、特に名詞の統語的用法と同じ振る舞いをしたものを研究対象とし、①「V（A）助詞」、②「V（A）の N」、③「連体＋V（A）」、④「V（A）だ・です」、⑤「V（A）と・や V（A）」、⑥その他に分類して考察する。

◇使用データとしては、「日本語学習者作文コーパス」（科研費課題番号：22520537，代表：李在鎬）を利用し、特に、そのうちの「外国語が上手になる方法について」をテーマとした作文データ（192 名分、その内訳は中国語母語話者 103 名、韓国語母語話者 89 名）を調査・分析した。初級、中級、上級のレベル分けも借用した。

4. 結果と考察

4.1 基本データ

◇　母語別誤用人数（%）

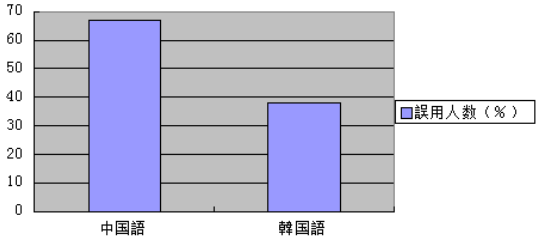

図 1

→中国語母語話者の誤用人数が多い。これは、中国語には形における名詞と動詞・形容詞との区別がなく、活用もないことに起因する可能性がある。

◇　　誤用別レベル別人数(%)

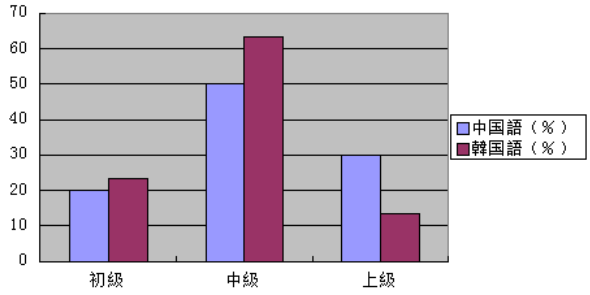

図 2

→いずれも中級の人数が多く、韓国語母語話者は、上級となると、割合が一段と少なくなっている。

◇　　母語別レベル別誤用率(%)

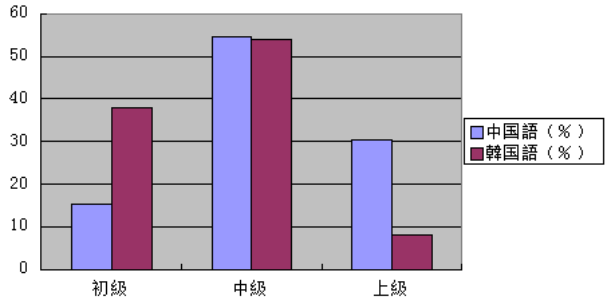

図 3

→初級と上級では、韓国語母語話者と中国語母語話者との差が大きく、中級はほとんど変わらない。

4.2　韓国語母語話者のデータの調査結果と分析

◇　韓国語母語話者レベル別誤用傾向(%)

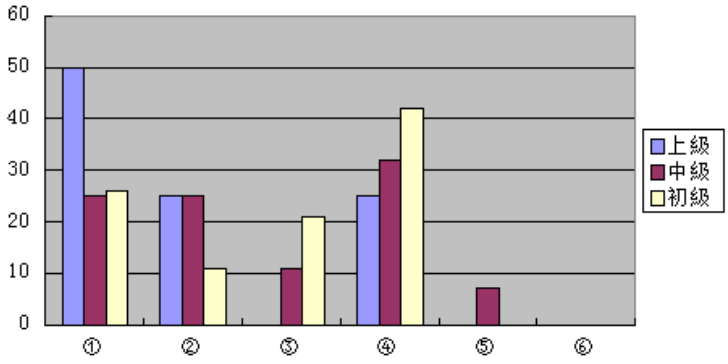

図 4

4.2.1 初級の場合

初級学習者は誤用数は比較的多いが、誤用のパターンを見ると、①、②、③、④に集中しており、特に④は多い。⑤と⑥（⑥は韓国語母語話者には見つかっていない）はなかった。

（9） だから、自分が話すことと相手が話すを聞くこと…両方ができるようにれんしゅうするのが一番だと思います。①（KG004、初級）
（10）つまり、外国語を上手くなるのためには、その国の人とよく話しながら、聞き取りの能力と話す能力を高くすることが第一の方法と思います。②（KG004、初級）
（11）私はこんな思う。③（KG001、初級）
（12）私が日本に関心を持っていたきっかけは高校生の時ほかの科目より日本語がやさしいだと思って、ほかの科目より勉強をたくさんしたことがあるだからた。④（KG001、初級）

4.2.2 中級の場合

中級学習者は誤用率が一番高く、誤用のパターンも多い。各パターンの差の変化は初級と中級ほど激しくない。

（13）でも、興味だけもって　外国語が　うまくに　なるのではない。①（KG069、中級）
（14）もっと勉強してほしいのばあいはりゅうがくとかワーキングホリデーをしたらいいと思う。②（KG002、中級）
（15）文法の勉強する方法は始めてはむやみに覚えたが今は文法の例文を見て理解しながら頭に記憶するために音を出して読でいます。③（KG055、中級）
（16）両国を比べて韓国人は「知らない」ということに関して恥じりながら素直ではない場合が多いのでそういうことを視たら日本より学ぼうとする積極性や開放性が劣っているだと思う。④（KG061、中級）
（17）例えば韓国語は小さい時から聞くや話すことに慣れていますが、外国語は勉強する時間にだけ使うので、そうではないです。⑤（KG025、中級）

◇中級にしか、⑤の誤用が見られなかった。

4.2.3 上級の場合

上級学習者のデータを見ていると、それぞれ違う人が 1 つずつ誤用をしており、ミスティークかエラーかの判断が難しい。

（18）ある言語学者はこう言った。「多くの本を読むことは外国語を習うに一番よい方法ではない。それは唯一の方法だ」と。①（KG064、上級）
（19）ほかの子よりうまくなた理由はなんだろうと考えてみると私は毎日日本語になっ

ているアニメを見るし音楽を聞くだから勉強がもっとよくできて分かりやすかった。④（KG064、上級）

4.3　中国語母語話者のデータの調査結果と分析

◇中国語母語話者レベル別誤用傾向(%)

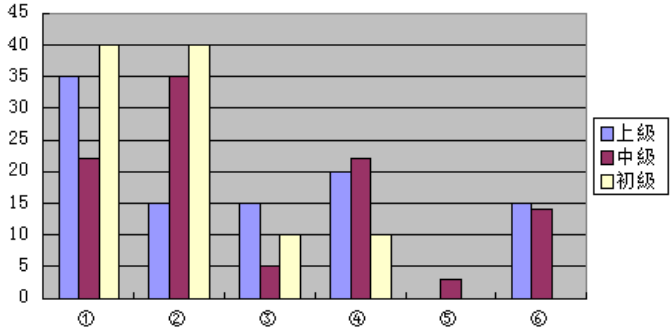

図 5

4.3.1　初級の場合

中国語母語話者は初級の場合、①、②類の誤用が多く、⑤と⑥は見られなかった。全体的に、韓国語母語話者の文より長さが短かった。

（20）単語が多いになる、文法が理解する、そして日本語が上手になるよ。①（CG031、初級）
（21）それは日本語科に選択するの原因だ。②（CG031、初級）
（22）なぜかという、中国では、多くの簡体字を用いるんだから、ほとんどの漢字は日本との全然違う。③（CG047、初級）
（23）話といえば一番大切なのは話すと私は思う[2]。④（CG047、初級）

◇韓国語母語話者も中国語母語話者も④は「…だと思う」の環境で誤用が出やすい。

4.3.2　中級の場合

中級となると、中国人の場合も、誤用のバリエーションが一番多い。

（24）その後、外国人の会話のニュアンスを練習するも大切だ。①（CG026、中級）
（25）その原因で、自分がわかる、覚えているの単語が多くなると、外国語がうまくなる。②（CG019、中級）
（26）外国人と交流の時、自分の話すだけでなく、相手の言葉を聞くのは重要であ

[2] この文は一見「だ」はついていないが、「…なのは、…だ」という文型から考えると、ここの「話す」は「話すことだ」の誤用と考えられ、「話す」は名詞として使われていると考えられよう。

る。③（CG037、中級）
（27）それで、私は文学の学習を言うだ。④（CG022、中級）
（28）外国語がうまくなるため、興味や練習やよく使うなど重要だった。⑤（CG036、中級）
（29）文法の覚えと理解のはもっと簡単になると感じる。⑥（CG018、中級）

◇⑥というのは、「理解のは」のようなもので、動名詞がかかわっていることが多く、同じく動詞と名詞との間の揺れの誤用であるが、かといって、上記の誤用パターンに収められなく、「その他」としたものである。ほかにも次のようなものがあり、動詞と名詞の間の揺れがうかがわれる。

（30）勉強を放棄して、趣味に走る人は絶対に外国語をマスターことがありえねい。⑥（CG026、中級）

4.3.3 上級の場合

上級では、①類の誤用が多く、⑤はなかった。ほかはそれほど変わらない。

（31）ぼくは毎日日本語を勉強するになります。①（CG013、上級）
（32）興味は人の一番いいの先生だと言われている。②（CG054、上級）
（33）勉強のやる意気満々である。③（CG020、上級）
（34）今、たくさんの人は「何かコツがあれば、簡単で日本語をうまくなれと」と思うけど、わたしはそんなことはないだと思う。④（CG038、上級）
（35）だから日本語の勉強ことはたいへんですね。⑥（CG013、上級）

◇例（35）も例（29）や（30）と同じように、「する」が少なくなっている、動詞と名詞の間の揺れの誤用である。

→学習者にとっては動詞の統語的振る舞いがいかに習得しにくいか物語っていると言えよう。

5. 考察

◇韓国語は中国語と違って、助詞があり、動詞の語尾変化があり、どちらかというと、統語的特徴が日本語に近いにもかかわらず、韓国語母語話者も日本語を産出するときに、中国語母語話者と同じように、名詞の統語的用法の動詞・形容詞への過剰般化が見られたことは、本研究の主張への有力な証拠となるであろう。

◇「の」の誤用だけを取り上げ、過剰使用・母語転移だと断定すれば、上記で観察された少なくとも①から⑤までの誤用も別に解釈しなければならなくなり、本来一括して説明できるものをより複雑にしてしまい、理論上不都合なこととなってしまう可能性がある。

◇名詞のインプット頻度からしても、産出頻度からしても、また多くの教室環境で勉強する学習者にしてみれば、そのインプットの順序（名詞述語文から導入する教科書が多い）からにしても、動詞や形容詞より有利なので、先に習得されることも用法基盤モデルなどの理論的根拠があるのである。

6. まとめ

◇体系的に名詞の統語的用法と同じような振る舞いをした動詞や形容詞の誤用は統語的特徴の異なる中国語母語話者や韓国語母語話者の初級から上級までのデータに見られ、「の」の過剰使用は「の」だけの問題ではなく、名詞の統語的用法の一パターンとしてみてとることができよう。

◇母語の如何にかかわらず、チャンクとして記憶しているという学習ストラテジーによる誤用と見なしてもよいものが多かった。たとえば、①のパターンでは、「V(A)になる」・「V(A)によって」・「V(A)でいい」など、②のパターンでは、「V(A)のほう」・「V(A)のため」・「V(A)のようだ」・「V(A)のとき」など、④では、「V(A)だと思う」・「V(A)だから」など。

◇これからは、よりこまめに記録した学習者の縦断的データを収集し、考察を深めたいと考える。

主な参考文献

奥野由紀子（2005）「日本語学習者の「の」の過剰使用に見られる言語処理のストラテジー」[D].

久野美津子（2012）「ヒンディ語母語話者による日本語名詞句構造に関わる「の」の習得過程：被験者Mの来日後5ヶ月間の事例.『静岡大学国際交流センター紀要』.6.

小山悟.2006. 「連体修飾構造の習得における『の』の過剰使用」.『九州大学留学生センター紀要』.第15号.

迫田久美子（1999）「第二言語学習者による『の』の付加に関する誤用」『第２言語としての日本語の習得に関する総合研究』』平成8年度～10年度.科学研究費補助金研究成果報告書.

白畑知彦（1994）「成人第2言語学習者の日本語の連体修飾構造過程における誤りの分類」静岡大学教育学研究報告(人文・社会科学篇)第45号.

張麟声（2002）『日本語教育のための誤用分析』スリーエーネットワーク.

テレンス・オドリン著、丹下省吾訳（1995）『言語転移』リーベル出版社.

日本語記述文法研究会（2009）『現代日本語文法2』くろしお出版

パッツィ・M. ライトバウン・ ニーナ・スパダ著、白井恭弘・岡田雅子訳（2014）『言語はどのように学ばれるか――外国語学習・教育に生かす第二言語習得論』岩波書店

松田真希子ほか「日本語学習者の名詞句の誤用と言語転移―アジア７ヵ国による日本語作文データに基づく分析―

吉川武時（1997）『日本語誤用分析』明治書院.

于康（2014）《日语偏误研究的方法与实践》浙江工商大学出版社.

張佩霞・高勝楠（2015）「中国人日本語学習者の「の」の過剰使用のもう一つのアプローチ」『日本語教育現場におけるコーパスの開発と利用』湖南大学出版社（印刷中）

张佩霞、吴宇驰（2013）〈近 10 年国内日语教学研究的现状考察 〉《日语学习与研究》6

张佩霞（2013）〈从入场理论看汉语定语标记“的”与日语定语标记「の」〉《汉日语言对比研究论丛》第 4 辑　北京大学出版社

楊琨・張佩霞・蘇鷹（2011）「動詞とその周辺の使用から見る学習環境の違いによる学習効果の差をめぐって」『異文化コミュニケーションのための日本語教育②』高等教育出版社